

タイトル	伊豆の国市民憲章（素案）に対するパブリックコメントの実施について
担当課	企画財政部 企画課 担当：小川・石井 (電話：055-948-1413)

1 要 旨

伊豆の国市では、令和7年4月に迎える市制施行20周年を契機として、市民が一体となって歩むべき伊豆の国市の未来に向けた道しるべを刻むものとして、「伊豆の国市民憲章」の策定を進めている。

このたび、有識者や公共的団体の代表者、公募市民から組織される伊豆の国市市民憲章審議会において、広く市民から寄せられた意見をもとに「伊豆の国市民憲章（素案）」を作成したことから、パブリックコメントを実施する。

2 パブリックコメントの概要

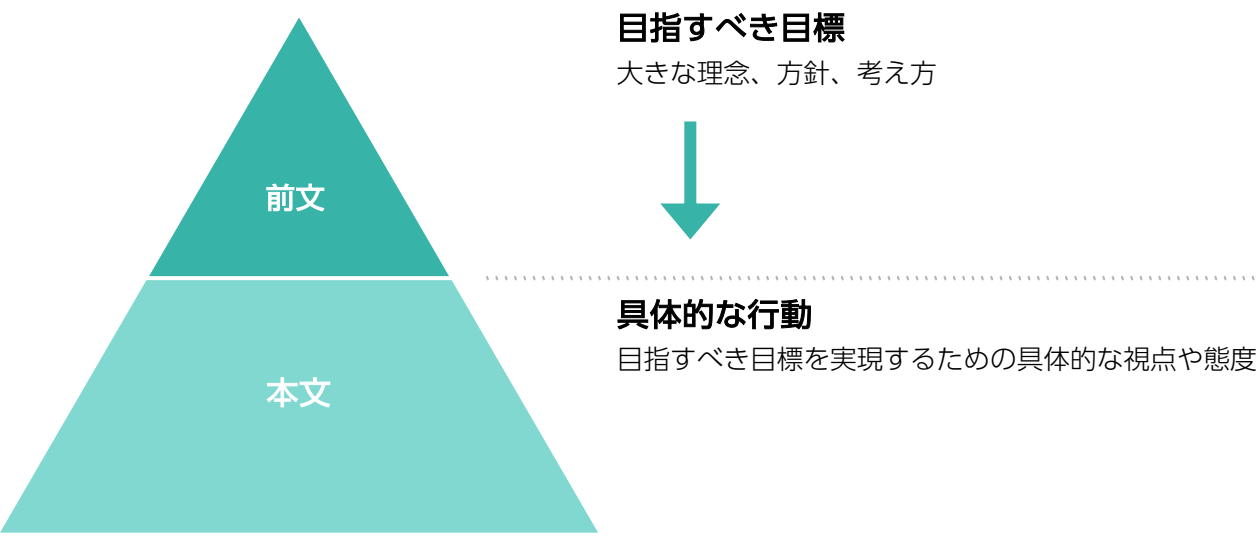
計画等の案の名称	伊豆の国市民憲章（素案）
意見の提出先	伊豆の国市役所企画課
意見の提出方法	(1) 書面（企画課窓口） (2) 電子メール（kikaku@city.izunokuni.shizuoka.jp） (3) 郵便（〒410-2292 伊豆の国市長岡340-1 伊豆の国市企画課宛て） (4) FAX（055-948-2915）
意見の提出期間	令和6年8月9日（金）から令和6年9月9日（月）まで
対象者	(1) 市内に住所がある方 (2) 市内に通勤又は通学している方 (3) 市内に事務所又は事業所がある法人
計画等の案の 閲覧場所	(1) 市ホームページ (2) 市役所窓口 ・伊豆長岡庁舎1階ロビー ・菰山支所／大仁支所 市民課窓口 (3) 中央図書館窓口、菰山図書館窓口
問合せ先	伊豆の国市役所企画課 電話：055-948-1413

3 今後の予定

令和6年10月中旬 審議会から市長に答申

令和7年4月6日（日） 市制施行20周年記念式典において披露

全体の構成



配慮事項・キーワード

- 覚えやすいという観点からシンプルにまとめること。
 - 未来の市民憲章の担い手である世代へも訴えるため、目安として小学5年生でも理解できる表現とする。
 - 前文は市の歴史や環境、誇るべき点などを入れる。
 - 目指すべき目標としてウェルビーイング^{*1}の概念のほか、ノーマライゼーション^{*2}、インクルーシブ^{*3}、多様性、基本的人権の尊重、住民自治の視点を反映。
-
- 市民参加、協働の観点からも市民が主語にあるべきと考え、文頭・文末の表現は「わたしたちは～します。」に統一。
 - 誰もがそれぞれの立場で取り組める内容とする。

^{*1} 個人が肉体的、精神的、社会的に満たされた状態のこと。
^{*2} 高齢者や障がい者などを施設に隔離せず、健常者と一緒に助け合いながら暮らしていくことが正常な社会のあり方であるとする考え方。
^{*3} 障がいの有無や国籍、年齢、性別などに関係なく、違いを認め合い、共生していくこと。

市民憲章（素案）

市民憲章（素案）		補足説明
前文	伊豆半島の北部に位置し、雄大な富士山と狩野川の清流に抱かれた伊豆の国市。	・ 全国に発信していこうとする観点から、市の地理的特徴を客観的に示す。 ・ 市民からの意見で地域の誇りとして最も多く挙げられた「富士山」「狩野川」を明記。
	わたしたちはこのまちで、韮山反射炉をはじめとする世界に誇る歴史遺産や、地域で育まれた豊かな文化を今に伝えてきました。	・ 市民からの意見で地域の誇りとして最も多く挙げられた「韮山反射炉」を明記。 ・ 世界遺産、国宝、重要文化財、国史跡などの歴史遺産と地域の伝統行事を示す。
	わたしたち伊豆の国市民は、多様性を尊重し合いながら、誰もが幸せに暮らせるまちを自らの手でつくるため、ここに市民憲章を定めます。	・ 目指すべき目標として一人ひとりが幸せになるウェルビーイングの向上を目指す。 ・ ノーマライゼーション、多文化共生、インクルーシブ、多様性、基本的人権の尊重といったこれからの時代において欠かすことのできない視点や住民自治の視点を反映。
本文	わたしたちは、 一、誰もが安心して暮らせるよう、人とのあたたかいつながりを築きます。	・ 暮らしの上での安全安心のため、ワークショップや市民の意見で多く挙げた社会的関係の構築を重視する。
	一、先人から受け継いだ自然や歴史、文化を守り、未来に伝えます。	・ 前文で述べた歴史遺産、文化、自然や環境を守ってきた先人への畏敬の念と、次の世代に継承していくという思い。
	一、未来を担う子どもたちを、地域みんなで育みます。	・ 市の持続可能な発展に向け、次世代育成を重視する思い。
	一、地域の力を活かし、世界へ続く道をひらきます。	・ 世界を見据えたグローバル^{*4}の視点を反映。また、地場産業や地域における社会活動、教育資源などを「地域の力」と表現した上で、活力あふれるまちを目指す。
	一、すべての人が、大切にされるまちをつくります。	・ マイノリティ、観光客、市内出身者で現在は市外在住者、市外からの通勤・通学者も含めて、国籍、年齢、性別などに関わらず、誰もが大切にされるまちを目指していこうとする思い。

^{*4} グローバルとローカルを合わせた造語で、地域性を考慮しながら、地球規模の視点で考え行動すること。